

女性センター ニュース



宮城一般労働組合女性センター 2008年8月 39
仙台市宮城野区小田原金剛院丁 78-2 金剛院丁SSビル 022-293-3267 E-mail: zzmrouso@theia.ocn.ne.jp

宮城県母親大会 特集

県内各地から約 1500 名の参加で大成功！

2008年6月29日 宮城県母親大会が石巻市で行われました。

健やかに育て子供たち・誰もが人間らしく生きる為に・平和・見学分会より42の申しあわせ事項が採択され無事終了しました。また、全体会では記念講演終了後、三陸ハーネス支部の佐藤あや子さんが堂々と勝利報告発言をしてきました。



佐藤あや子さんは、高校2年生になる娘さんに自分の母親を介護しながら、3年3ヶ月解雇闘争をしている姿を母として見せてきた思い・・・解雇されてから画期的な勝利命令が出された6月12日まで・・・そして、この舞台に立つまでことを、原稿を持たずに一つ一つかみしめるように話してくれました。会場に集まった千人以上の人達に心にしみる感動の発言をしてきました。

分科会では、“働けど、はたらけど・・・ワーキングプア”の現実を各業種の方々より聞くことが出来ました。非人間的な働き方の中で働く本人が“うつ”になることで、家族をもうつ状態に巻きこまれてしまう現実が発言されました。

母親大会物資のご協力ありがとうございました！

2008年6月29日
各分科会より



宮城一般女性センターより参加者の感想です

宮城県母親大会に参加して

コープ福祉会 桜ヶ丘訪問看護ステーション 残間美子

48回目の母親大会...子連れでの20数年前に参加し始め最近では、恒例の同窓会に出かけるような、そして元気というおみやげを持って帰途に着く、里帰りのような気さえしています。そんな中でも、今私たちを取り巻いている社会の流れをどうとらえ、どう生きてゆくのか、など課題を与えられる場でもあります。

午前中私は“地球規模に広がる格差と貧困”の分科会に参加。後藤宣代先生が経済学を専門としている立場から、また幼少の頃から母親大会に参加していた経験を踏まえた話となりました。生命や暮らしを守り続けることの様々な歴史的運動が世界各地で続けられてきたこと。困難はあっても母親運動こそ、その先頭に立って行けるものと確認しあいました。そして午後の石坂 啓さんの切り口の鋭い考え方、生き方には、ハットさせられながらも“じわっ”と共感でき、あっという間の全体会でした。「子どもの未来」を真剣に考える大人のあり方を日々追求せねばと自分に言い聞かせた一日です。

分科会「宮城県沖地震 その時女川原発は」に参加して

現代印刷出版 鈴木 幸子

おりしも岩手宮城内陸地震の脅威を目の当たりにしたばかりです。たびたび事故のニュースを聞きますがどのようにしているのかと思い参加しました。

高野博さんと阿部律子さん、お二人の女川町議の案内で学習しました。バスの中では、東北放送が原発の特集を報道した3回分のビデオを見て、レジメを見ながら説明を聞きました。

コバルトラインからくねくねと狭い山道を下り、今回見学するPR館に着きました。女川原発には、沸騰水型軽水炉が三機あります。最初の展示は、2010年から始めるMOX(モックス)燃料をつかうプルサーマルという計画です。ウランを燃やしたあと、燃料棒に付いたプルトニウムを回収し、ウラン燃料とプルトニウムを混ぜて(MOX燃料)燃やすという計画です。一般に設計された炉でこのMOX燃料を使う(プルサーマル計画)のは再処理工場の危険性も加わります。政府は、プルトニウムを取り出しても「もんじゅ」で燃やせないのだから一方になり、この計画を立てたのだそうです。なんとも無謀な計画です。

女川原発では平成18年からボーリング調査をして付近の海底に活断層が4本あることを認めています。また、耐震安全評価の基準となる宮城県沖地震の地震動を375ガルから580ガルに上げました。そして、耐震補強工事中ということでした。しかし、先日の地震では、震源の深さ8キロの直下、M7.2で4022ガルを記録しました。電力会社は地震で事故が起きるたび「想定外の揺れ」と言ってきましたが、もうそんな言い逃れは通用しないと思います。

「巨大地震に対し安全対策をとるように」「プルサーマル計画を持ち込まないよう運動しましょう」「原子力に頼らないエネルギー開発を求めましょう」3つの申し合わせ事項をみんなで真剣に考えました。

私たちは電気がなければ暮らしていけない生活をしています。食の安全・安心と同じように電力会社にも安全・安心が問われると思いました。事故が起こってからでは遅いのです。消費者として環境や働く人々に対して安全に作られているのかを知り監視していかなければならないと思いました。

石坂 啓さん “子どもの未来は大丈夫？” 記念講演から

こーぷ福祉会 こーぷのお家いしのまき 千葉 みゆき

石坂さんは初めに、「今日の話で、何か得て帰ろうと思っても無駄ですよ。」と言った意味のことをおっしゃっていましたが、とんでもない！雨降りの午後2時半、眠かけでかなりにぶっていた頭に見事に湯を入れていただきました。あつという間の1時間。非常に盛りだくさんの内容でした。ペットの話、子育て事情など軽めの話から軽妙なトークが進み、政治、皇室問題、最後には憲法9条と戦争といったヘビイな内容になりましたが、話にぐいぐいと引き込まれました。これからの世の中「戦争」というどこか遠い響きを持っていたこと言葉が、日常会話の中で語られるようになってしまうのか？ いや、そうさせてはいけない、と強く思いました。

第48回宮城県母親大会に参加して

みやぎ生協支部 伊藤 澄枝

6月29日(日)に、石巻市の開北小学校で開かれました。9:30から各分科会が開かれ、各テーマについて話し合いが行われました。私は、「守りたいに日本の農・漁業 食の安心・安全を求めて」の分科会に参加しました。

教室いっぱいの人で、床の上に紙を敷いての分科会でした。

毎日新聞を賑わせている食の問題なので、関心はたかくて、農業についても農業だけでは、暮らして行けない為、会社勤めをし、次の世代には引き継げないという現状を次々と話された。

漁業についても燃料の高騰で、大変とのこと、続けられないようだ。発言の中で「ほとんどが輸入で、日本の食に関してどうなるのか、とても心配になります。」という声が多く出てました。

「もっと、子どもたちに本物の味をお教え地産地消をすすめて行ければと思う。」そんな意見も出ていました。輸入食品ばかりに頼らなく経済も発展させるもので、とても大切な産業だという位置にある。第一産業で生命維持産業でもあるという話でした。

石坂啓さんの話は、今の社会を石坂さんの目から見た話で社会の歪みを政治とのからみから話し始めもっと行動に起こすことの大切さ等、時間をオーバーしての講演(好演)でした。